Multilingual Electronic Newsletter

多言語メールマガジン

かごしま南の風便り

Kagoshima Southern Wind Tidings

VOL.194

▽トピックス

1　国際交流員のコラム（鹿児島県国際交流員　トウ･レイカ）

●日中友好の道を辿る薩摩半島の旅

2　知事の動き

●薩摩藩英国留学生記念館開館 10 周年記念セレモニーに出席しました（11 月2日）
●香港かごしまクラブ及び香港鹿児島県人会との懇談会を開催しました（11 月6日））
●在香港日本国総領事館を表敬訪問しました（11 月7日）
●香港航空を訪問しました（11 月7日）
●「第 24 回鹿児島・香港交流会議」を開催しました（11 月8日）
●「第 24 回鹿児島・香港交流会議」知事主催レセプションを開催しました（11 月 8 日）
●中国駐福岡総領事が訪問されました（11 月 15 日）

3　観光かごしまのイベント情報

●弥五郎どんまつり（11 月3日）
●おはら祭り（11 月2日･3日）

国際交流員のコラム

●日中友好の道を辿る薩摩半島の旅●

―鹿児島県国際交流員　鄧麗霞（中国出身）―

鹿児島県と鹿児島市の日中友好協会の主催による日帰りバスツアーが行われ、県内の中国人留学生をメインとする約 60 名が参加しました。私は通訳としてはまだまだ未熟ですが、日中友好協会の方と一緒に留学生たちを絶景スポットが多い薩摩半島南部巡りのコースへ案内し、観光や見学をして楽しい思い出をいっぱい作ってもらいました。

朝 7 時半に鹿児島大学図書館前で集合して、まず知林ヶ島を眺める道の駅いぶすき「彩花菜館」に向かって出発しました。知林ヶ島を陸続きにする砂道は、時期的に見ることはできませんでしたが、錦江湾を流れる海流がぶつかり合って海流の境目に砂れきが堆積してできた道が潮の中にあることを考えるだけで鹿児島の新奇な自然に惹かれました。

次は半島最南端の地である長崎鼻を訪問しました。ここでは、「薩摩富士」とも呼ばれている開聞岳を眺められるほか物語の中の浦島太郎の石像と姫様を祀った龍宮神社もあります。景色はもちろん、道端の店や看板も鹿児島の面白い文化と雰囲気を楽しめるところです。私はお土産に名物の鰹節を買いました。

竜宮神社

道端に見かけた面白い看板

昼食先へ行く前に池田湖にも寄りました。私は池田湖に関する豆知識とイッシーの伝説を留学生たちに伝え、池田湖の大うなぎを見に行きました。池田湖は九州最大のカルデラ湖で、池田湖の大うなぎは、寿命 30 年～50 年、長さ最大 2m、重さ最大 20kg にも達しています。こんなに綺麗な環境で育った天然うなぎはきっと美味しいだろうと想像しました😆

番所鼻海岸の岩礁に登った私

お昼は回転式そうめん流し発祥の地と言われている唐船峡で食べました。唐船峡は、夏は屋外にも関わらず涼しい自然環境の中で食欲がそそられ特に人気があります。冬は暖房の効いた屋内の席が設けられていたのですが、暖かい環境の中でそうめんを流しながら食べるのも楽しかったです。中国東北地方のマイナス何十度の冬に、暖かい部屋の中でアイスを食べる風景と似ています。

食事後は、番所鼻公園へ向かいました。留学生たちは大陸の出身が多く、こんなに近い距離で海とふれあうのは初めてです。海に繋がる林の道を辿っていくと、突然現れた海天一色の開放感と雄大さに驚き、思わずみんな、異口同音に「わー」と叫びました。みんな聳(そび)えている開聞岳を背景に撮影したりして、鹿児島で楽しい青春の思い出を残しました。

幸せの鐘

鑑真記念の碑

その後、鑑真記念館へ移動しました。唐の高僧で奈良唐招提寺の開祖である鑑真は、聖武天皇から招かれ日本に渡航しようとしましたが、当時の渡来は困難を極め、５回の渡航失敗などの末、両目を失明しました。しかしながら６回目の日本渡航を試みた鑑真は、天平勝宝５(753)年、現在の南さつま市坊津町秋目にやっと上陸し、日本に仏教の戒律や薬学の知識などを伝えました。鑑真の出身地である現在の江蘇省揚州では大明寺に鑑真記念館が建設され、友好交流史の証となっています。鑑真記念館へはくねくねしている狭い山道を通る必要があり鑑真の偉大さを実感できました。館内では、鑑真渡航の模様とその生涯を展示品や大型ビジョンに放映される映像で勉強しました。小さな記念館ですが、たゆまぬ努力をして困難を克服する鑑真和上の精神は、両国の友好交流のために頑張る人々を永く広く励ましていると感じました。

鑑真記念館を見学した後は、近代日本において焼酎文化の礎を築いた黒瀬杜氏の里笠沙でした。日本の「伝統的酒造り」が、ユネスコ無形文化遺産に登録されたよいタイミングで黒瀬杜氏の焼酎作りの見学に行きました。鹿児島の焼酎作りにおいて、三十年代に杜氏という職人が生まれ、彼らは鹿児島県内はじめ九州、関西方面、日本へと焼酎作りの技術を広げたそうです。館内では、焼酎伝来の歴史や焼酎作りの歴史と技術に関する文献と道具が展示され、製麹、一次モロミ、二次モロミ、蒸留、

中国の茅台酒も展示されている

貯蔵、瓶詰めの工程も見られました。中国の蒸留酒と言うと、まず浮かび上がるのは、コーリャン（高粱）、トウモロコシ、ジャガイモ、サツマイモなど穀物を原料とする、50 度を超える白酒（バイジュウ）です。それ故、中国人の学生はお酒を飲まないのが一般的です。でも杜氏の里笠沙では、留学生たちは鹿児島の焼酎を試飲しその甘みと香りを美味しく吟味していました。

鹿児島の焼酎の数々

玄関付近に置いてあるたくさんの酒壺

日が暮れる前に「安らぎの郷川辺」に寄って地元の特産品を買いに行きました。普段あまり目にしないおやつから調味料、野菜、お肉までみんな長い列を並んで様々な特産品を買っていました。

中国人留学生のみなさんにとって道中の景色や参加者間の交流、見学先で一生懸命聞き取る姿、写真で撮られた笑顔、全部鹿児島でのよい思い出となります。ぎゅうぎゅう詰めの見学コースでしたが今回の日帰りバスツアーでは、鹿児島の美しい自然と美味しい物を満喫することができ、収穫の多い 1 日になりました。

今回の日中友好の道を辿った旅が、これからのより良い両国の友好交流に繋がっていくことを願っています。

知事の動き

●薩摩藩英国留学生記念館開館 10 周年記念セレモニーに出席しました（11 月 2 日）●

薩摩藩英国留学生記念館開館 10 周年記念セレモニーが開催され、来賓として祝辞を述べさせていただきました。

いちき串木野市をはじめ、関係者の方々の努力によって、開館 10 周年を迎えられましたことに対し、深い敬意と感謝をお伝えしました。

県としましても、いちき串木野市をはじめ、明治維新に関わる観光資源を持つ関係市町村及び団体の皆さまと連携を図りながら、「南の宝箱　鹿児島」の魅力である歴史的資産を国内外に情報発信してまいりたいと考えており、薩摩藩英国留学生記念館が、薩摩スチューデントの功績を学ぶ拠点として、更に躍進されますことを期待しております。

▲祝辞を述べている様子

●香港かごしまクラブ及び香港鹿児島県人会との懇談会を開催しました（11 月 6 日）●

香港において、香港かごしまクラブ及び香港鹿児島県人会の皆さまとの懇談会を開催しました。香港かごしまクラブは、鹿児島と香港を結ぶ架け橋として、鹿児島の PR 活動や日本語研修生への支援、両地域の学生交流の実施など、鹿児島と香港の交流促進に多大なご尽力をいただいております。

県としましては、香港かごしまクラブの設立時から会長を務め、本年 2 月にご逝去された故溝口鉄一郎氏が繋いできた鹿児島と香港の交流を更に発展することができるよう、今後とも香港での取り組みに一層力を入れてまいります。鹿児島を訪れたい」という感想もいただき、食や観光、伝統的工芸品と幅広い切り口での本県の魅力発信につながったところです。

▲懇談会でのあいさつの様子

●在香港日本国総領事館を表敬訪問しました（11 月 7 日）●

在香港日本国総領事館を表敬訪問し、「鹿児島・香港交流会議」をはじめとする香港と本県との交流状況をご説明するとともに、香港の経済状況等について意見交換を行いました。

岡田健一大使からは、本県の和牛や水産物、焼酎等が香港の巨大マーケットに参入するための助言をいただきました。

今後とも香港での本県産品の認知度向上及び販路拡大に取り組んでまいります。

▲岡田健一大使と

▲在香港日本国総領事館での表敬の様子

●香港航空を訪問しました（11 月 7 日）●

県議会や県内経済団体の代表の皆さまで編成した第 24 回鹿児島・香港交流会議の訪問団で、香港航空を訪問しました。

私からは今年 3 月に同社が運航する鹿児島-香港線が就航 10 周年を迎えたことから、これまでの運航について謝意を伝えるとともに、路線の拡充等の要望を行いました。同社からは鹿児島-香港線を 12 月 23 日から 1 便増便の上、週 4 便の運航とする旨の表明があったとともに、路線の安定的運航及び利用促進等に関する意見交換を行いました。

▲訪問団と香港航空の皆様との意見交換時の様子

●「第 24 回鹿児島・香港交流会議」を開催しました（11 月 8 日）●

「第 24 回鹿児島・香港交流会議」ラウンド・テーブル・ミーティングを香港で開催しました。香港と鹿児島とは、1980 年に開始した交流会議以降、40 年以上の長きにわたり、経済・観光、芸術・文化、青少年など幅広い分野における交流を積み重ねてまいりました。

交流会議では、アジア地域における国際ビジネスの拠点として発展を続けてきている香港の政府関係者及び各分野の代表の方と、鹿児島側は県議会の代表や経済団体代表を交えて意見交換を行い、その結果、今後も引き続き幅広い交流を継続することとし、次回の交流会議は２年後に鹿児島で開催することを合意しました。

香港は富裕層も多く、高い購買力、日本産品の高い知名度、関税や規制の少なさ等や、香港航空が運航する鹿児島-香港定期航空路線により、香港と鹿児島間の人の往来が活発であることなどから、県産品の販路開拓や観光誘客の有望な市場と捉えています。

今回の交流会議を契機に、今後、鹿児島と香港との連携・協力関係がますます強くなることを期待しております。

▲香港の政府関係者及び各分野の代表の方と

▲第 24 回鹿児島･香港交流会議の様子

●「第 24 回鹿児島・香港交流会議」知事主催レセプションを開催しました（11 月 8 日）●

香港交流会議出席者や在香港日本国総領事、食品・流通、観光・航空関係者など 150 名を超える方々をお招きしたレセプションを開催し、鹿児島和牛やブリなど鹿児島の誇る食をご堪能いただきました。

また、鹿児島の本格焼酎やお茶、黒酢を提供するブースのほか、本県観光も PR したところです。

今後とも、このようなトップセールスや各種プロモーションを通じて、本県産品の認知度向上を図り、更なる輸出拡大と誘客促進に繋げてまいります。

▲レセプションでの挨拶の様子

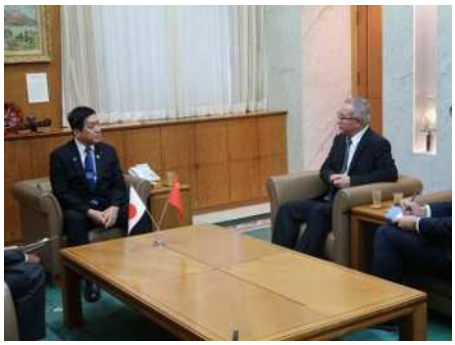
▲関係者の皆様と

●中国駐福岡総領事が訪問されました（11 月 15 日）●

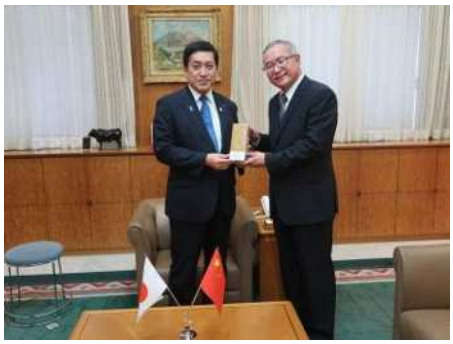
中華人民共和国駐福岡総領事館の楊慶東（ようけいとう）総領事が県庁を表敬訪問されました。

楊慶東総領事からは、鹿児島県と中国は地理的・文化的・歴史的に近い関係にあること、また、鹿児島県は県内在住の中国人や鹿児島を訪れる中国人観光客が安心・安全に生活や旅行ができる場所であり、今後とも緊密な関係を築いていきたいとお話しいただきました。

知事からは、中国の江蘇省や清華大学と長年に渡り交流を行っていることや、鹿児島空港と中国を結ぶ定期航空路線がコロナ禍を経て今年運航再開したことをお伝えするとともに、総領事はもちろん中国の方々に鹿児島の美味しい和牛やお茶、焼酎などを味わっていただきたい旨お話ししました。



▲総領事との表敬の様子



▲中華人民共和国駐福岡楊慶東総領事と

観光かごしまの旬の情報

●弥五郎どんまつり（11 月 3 日）●

弥五郎どん祭りは、おはら祭り（鹿児島市）、お釈迦まつり（志布志市志布志町）と並び県下三大祭りであり、約 900 年の伝統があります。
当日は、午前 1 時に「弥五郎どんが起きっどー」とふれ太鼓（神事）により、祭りが始まります。

午前 4 時には、「弥五郎どん起し」が行われ、参加することで、「身体が強壮になり、運気ますますめでたくなる」と言われています。

午後から行われる「浜下り」は、八幡神社の境内を出た弥五郎どんが、約 3 時間市街地を威風堂々練り歩きます。

大勢の見物客が弥五郎どんを取り囲み、祭りは一気に最高潮に達します

▲「浜下り」の様子「© K. P. V. B」

●おはら祭り（11 月２日・３日）●

毎年 11 月２日・３日に天文館周辺で行われるおはら祭は、昭和 24 年から始まる南九州最大の祭りです。

鹿児島を代表する民謡「おはら節」や「鹿児島ハンヤ節」「渋谷音頭」にあわせて練り踊る「総踊り」を中心に、様々な催しが行われます。

「夜まつり」では総踊り、おごじょ太鼓競演が、「本まつり」では総踊り、おごじょ太鼓競演、マーチング、ダンス「オハラ 21」等が行われ、天文館一帯がにぎわいます。

「おごじょ」は鹿児島の方言で「女性」を指し、勇ましく美しい薩摩おごじょの太鼓と笛の演奏も圧巻のパフォーマンスでした。

▲「総踊り」の様子「© K. P. V. B」

▲夜祭りの様子

◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆
鹿児島県庁ホームページ　http://www.pref.kagoshima.jp/
◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆

□■━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━■□

編集後記（鹿児島県観光・文化スポーツ部国際交流課）

鹿児島も冬らしい寒さとなり、華やかなイルミネーションが街を彩っています✨
年末年始は忘年会やクリスマス、そしてお正月など、慌ただしくも楽しい時間をお過ごされた方も多かったと思います。
今年も、鹿児島県の最新ニュースを皆様にお届けしていきますので、どうぞお楽しみに❣
2025 年が皆様にとって実り多き一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

□■━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━━■□

「かごしま南の風便り掲示板」では，次の鹿児島に関する話題を募集・掲載いたします！

☆鹿児島フォトギャラリー
　鹿児島らしさを感じる写真や海外で見つけた鹿児島の写真を募集いたします。写真の簡単な説明を添えてお送りください（例：克灰袋の山）。

☆鹿児島暮らしの知恵
　鹿児島の生活に関する情報をご共有ください（例：つけあげのおいしい食べ方、火山灰の対処法）。

その他，読者の皆様に発信したい情報もお待ちしております。

▲▽▲▽　記事提供・お問い合わせ先　▲▽▲▽
日本国　鹿児島県　観光・文化スポーツ部　国際交流課
〒890-8577　鹿児島市鴨池新町 10-1
電話番号:+81-99-286-2306
FAX 番号:+81-99-286-5522

↓電子メールアドレス
英　語：cir1@pref.kagoshima.lg.jp
中国語：cir2@pref.kagoshima.lg.jp
韓国語：cir3@pref.kagoshima.lg.jp
日本語：minami@pref.kagoshima.lg.jp

本記事の著作権は鹿児島県に属します。無断での再配信、転載及び掲示板等への掲載は禁止します。